

テーマ：『流山がすごい』  
～人口増加率日本一の舞台裏～

講師：大西 康之氏 ジャーナリスト／元日本経済新聞  
編集委員

日程：2023年5月25日



早稲田大学法学部卒業後、日本経済新聞入社。欧州総局（ロンドン）、編集委員、日経ビジネス編集委員などを経て2016年独立。著書に講演テーマのほか『稲盛和夫最後の闘い JAL再生に賭けた経営者人生』（日本経済新聞）『起業の天才！江副浩正 8兆円企業リクルートをつくった男』（東洋経済新報社）など多数。

全国772の市があるなか、流山市は6年連続人口増加率ナンバーワンである。人口増加に至った一番のきっかけは市長の手腕によるところが大きい。もともと海外で、デベロッパーと地域住民の橋渡しをする都市コンサルタントとして働いており、2003年から20年間市長を継続している。市民が望んでいることを徹底的にリサーチし、当初は17しかなかった保育園を20年間で100超えにし、保育園の質を担保するために、保育士への月10万円の支援金と家賃補助により、保育士を増やし、十分な保育士もいき渡るようにした。また、保育園が不足している段階から、流山市に住む全保育園児が利用可能な送迎ステーションを実施する等、子育て世代が求めるサポートを実施し、子供・子育て世代を増やしてきた。その他、民間の力も大いに活用し、子育て世代を呼び込むキャッチフレーズの作成や、農地に東京ドーム29個分のeコマース倉庫を作り、市民・納税者・税収を増やした。

流山市くらの20万都市だと、何か働きかけることで変わった手ごたえを感じることができる。今や人気のまちとなり、共働きで子育てをしているアッパー層が住むまちになってきた流山市では、このまちをどうやって子供のために住みやすいまちにするのか等を考え、ローカルに目覚める人たちが増えてきている。これからの日本にとって、自分たちでまちを何とかしようと動くローカルなまちづくりは、極めて大事なテーマではないか。



図1 20年間で5万人増、全国772市中6年連続1位



図2 卓越したマーケティング戦略